

朝鮮銀行は海外銀行であったため解散したので、私は東京方面へ早く進出しておればもっと道は開けていたと思われる。

しかし、移住関係の仕事でブラジルで六年勤務し、定年退職後、現在の中小企業に勤務して、早十年余を経過している。

## 引揚げて

兵庫県 小林 秀 治

日中戦争が拡大し、世界情勢が大きく変っていく中で、満蒙開拓を夢見た私は、いろいろと手をつくしました。結果が朝鮮・平安北道から公立新義州高等女学校の教諭として採用通知を受け、赴任したのです。現地の気温は零下が平均気温で、家庭ではオンドル生活で、食事は内地（日本）と別に変らないのですが、特色ある朝鮮料理やキムチなど、珍しいものばかりです。学校は日本人のみの高等女学校で、四年制、定員は一

クラス五十人、うち一割は朝鮮人を就学させるという規定ですが、教職員、生徒とも皆日本人ばかりでした。スポーツはスケートとバレーボールくらいです。朝鮮半島の三寒四温の気候帯を珍しく感じましたが、原因は水豊発電所のダム建設のために水温が上がリ、鴨緑江の川水も高温となって凍結しなくなったからとのことでした。食糧不足が見えてきた昭和二十年三月末、全羅南道光州府公立光州高等女学校への転勤がまゝり、四月五日に着任しました。ここでも勉強はほとんどなく勤勞奉仕のみでした。二十年八月、世界大戦は終結しました。わが軍は敗北し、広島、長崎には原子爆弾が投下され、東京をはじめその他の都市にも空爆による多数の死傷者を出したことは永久に忘れることはできません。

三十有余年におよぶ日本政府の压制下におかれていた朝鮮半島の人びとは、天下晴れての万歳、万歳の連続です。われわれ日本人は本国（内地）への帰還のために、荷物の片づけをして引き揚げのニュースを待つばかりでした。そのころ私は二度目の召集を受け、入

隊はしたものの訓練もない骨抜き軍生活でした。外泊が許されると、家族と共に荷物の整理に追われるといった有様で、不安な毎日を送っていたのです。健康には特に注意しました。「荷物は所定の場所へ運ぶこと」の指令があり、大八車で運び終わった後は鍋一つに茶わん、皿、それぞれ二個、三個ほどとそのほかに身のまわり品を取り揃えてトランク一個に詰め込みました。少量のお米と子供二人分のおやつ、一人あて現金千円ずつを身につけ、リュックサックを背負って集合場所のお寺へ参りました。

三日余りの共同生活の後引き揚げ列車が仕立てられ、私たちは乗車しました。アメリカ兵の厳重な護衛の下に列車は光州を出発し、一路釜山へと向かったのです。釜山でもお寺へ集合しました。一週間ほど待機していると、関釜連絡船「金剛丸」が入港したとの連絡があり、アメリカ兵の命令で所持品の検査を受け、DDTを身体に散布され、乗船しました。どこの港に着くのかわからないままに「玄海灘」を過ぎ、島根県・日本海側の仙崎湾へ入港し、私たち家族四人は内地

への上陸第一歩を印したのです。

早速貨物列車に乗車し、一路山陰線を東へ走り、鳥取駅で若桜線に乗り換え、八東駅下車。家内の実家村家へ落ち着いたのです。私は就職運動に出かけました。母校八鹿農蚕学校へ行き、林校長先生にお目にかかったのです。私の在校中の担任で、大変にお世話になった先生でしたが、採用と決定していただき、うれしさと安心感で胸いっぱいになりました。書類調達のために東京の外務省・朝鮮残務整理係へ出頭しましたが、その時の往復切符の入手から乗車に至るまでの苦しさは想像以上でした。世界に誇る大東京は一面の焼野が原で、驚きと悲しみが一気にこみあげてきました。悲しい思い出の一つです。

昭和二十一年一月、家内は三人目の赤ん坊を出産しました。私は単身赴任の形で八鹿農蚕学校へ着任し、春三月末を待って家族を呼び寄せたのです。学校正門前の民家の二階一間を借り受け、次は農家の納屋の二階一間を借用して一家の生活が始まりました。子供達三人はそれぞれ幼稚園、小学校へと通うようになった

のです。

しばらくして、県の計らいで八鹿町に引揚げ者の寮が建設されたので入居しました。それから次男、三男を出産し七人家族となりました。